

◆障がい者福祉の現状をチェック——健康福祉分科会

今回は「障がい者が暮らしやすいまちづくり」という施策の中から、「共に生きる地域づくりを阻害する情報のバリア（障害）」という選定テーマで6つの事業を選びました。中には別の施策に紐付けられている事業もありましたが、健康福祉の視点で捉え直し関連付けることによって、議会が審査することの積極的な意味もはっきりしたように思います。

具体的には、障がい者向けサービスのいくつかの面で時代に合わない部分が散見されました。今の利用者に配慮しながらより便利で暮らしやすいサポートができるよう、建設的な提言ができたのではないかと自負しています。



《決算審査の分科会》

多摩市議会には4つの常任委員会がありますが、決算委員会においては各委員会がそのまま分科会に移行し、それぞれ専門分野の決算審査を行います。その方法もここ数年模索が続いていますが、今年度は分科会ごとに独自のテーマを設定し、議会の切り口で行政の施策を評価するという試みを行いました。

◆「ヒバクシャ」は今や国際語！——市民陳情

今定例会で審議された陳情のうち、以下について採択の立場で意見討論を行いました。

日本政府へ意見書をあげる件に関する陳情

政府が核兵器禁止条約の批准に加わることを求める内容でしたので、私は「被爆国日本として核兵器禁止に積極的な態度を取ることは当然である」と主張し、本市の「非核平和都市宣言」が空疎なキャッチコピーとならぬよう毅然とした対応を求めました。しかし、自公の反対によって全会一致とならなかったため意見書提出には至りませんでした。

私たち大人には、未来の世代に「核や戦争のない社会ビジョン」を身をもって示すという責務があります。対話を否定し国際社会

の緊張をいわずらに煽るかのような政府の姿勢をただし、真摯な外交努力を続けることこそが国民の安心・安全な生活に繋がるという信念のもと、今後も諦めずに議会の内外で主張を続けてまいります。



◆核の不安から解放されるために——議員提出議案

生活者ネット・社民の会から提出した意見書が、本議会で可決されました。

朝鮮民主主義人民共和国の核実験に抗議し、

関係国の自制及び平和的解決を求める意見書

上記の市民陳情が通らずこちらの意見書が通るという結果には、実のところいささか驚いています。恐らく焦点が「核兵器」ではなく「核実験」であったためかと推察しますが、同時に「出してよかった」と強く実感しました。政権内部から「核武装」などという言葉が飛び出してくる今、私たちは核廃絶と反戦の声を微塵も弱めてはならないと思います。

「誰もが生き生きと自分らしく暮らせるまちづくり」は平和が前提で

なくては到底望み得ないものです。たとえ戦争にまでは発展しなくとも、人口減の借金大国日本が今の調子で武器や兵器を買い続けられれば、社会保障や子育て支援の充実どころではなくなってしまいます。多摩市も、日本も、未来の世代に感謝されるような賢い選択をしていきましょう！

伊地智恭子は、多摩・生活者ネットワークの向井かおり議員、岩崎みなと議員と3名で、会派「生活者ネット・社民の会」を結成しています。



街頭ではコミック・レポート『タンバリン通信』をお配りしています。

バックナンバーをブログに載せていますので、是非ご覧ください。

公式ブログ『キョーコ式ランドスケープ』

<http://kyokolandscape.blog.fc2.com/>

↑もちろん、コミック以外の記事も載せています!!

また Facebook と Twitter でも発信中!!



● お困りごとがありましたら、
● お気軽に下記へご相談ください。
● また、「伊地智恭子とまちづくりの会」
● (年会費 1,000 円) はいつでも会員募集中!
● ご寄付やボランティアも大歓迎です。
● ご連絡をお待ちしています。
● TEL / 042-400-6264
● E-mail / ipanema_red@yahoo.co.jp
● 伊地智 恭子 (社民党)